

1人1台端末活用推進—学びを止めないために

つくば市教育委員会 教育長 森田 充



すっかり秋の気配が感じられるようになりましたね。週末には各所で体育的行事が行われ、元気いっぱいの子供たちの笑顔に、本当にうれしく思います。一方、子供たちが充実した学校生活を送れるようにと、先生方が創意工夫をして、熱中症対策とコロナ対策などこれまでにない様々な対応に追われながら支えてくださっていることに、感謝しかありません。本当にありがとうございます。

こんな状況だからこそ、改めて学校は子供が主役でありたいと思います。それは学びにおいても同様です。授業の中で、ひらめき、考え、議論し、分析し、解決のために手を動かし、時には動き回る姿が見られなくてはなりません。これは、つくば市教育大綱に示した「教えから学びへ」の転換を実現した姿なのです。そのことを実現するための一つの手だてとして、教育委員会では「つくば GIGA スクール構想」を進めています。これにより、児童生徒に1人1台のタブレット PC とネットワーク環境が整います。でも、ICT 機器があるだけでは、「教えから学びへ」には変化させることができません。何が必要でしょうか。その答えは、とにかく子供たちに ICT 機器を使わせることです。子供たちに使わせれば、子供たち自身がより良い使い方を見つけ出し、身に付けていきます。電子黒板もそうです。先生の説明に使うだけでなく、子供たちが考えを表現したり、資料を拡大して見たりするために子供たちに

開放してみてください。タブレットは、スタディノートやインターネットが使えます。子供に与えれば、自ら調べたり、解決方法を見つけ出したりするでしょう。また、スタディノートを使えば、一人一人が主体的に学べるとともに、コロナウイルスのこの状況下であっても、ディスタンスをとりながら、意見の交流や対話ができます。ICT 機器を活用すればこそできる、子供が主体の「教えから学びへ」の授業があるのです。子供たちの学びの充実のために、必ず活用してほしいのです。

I C T だよりは、今後、多くの先生方の実践を紹介していきます。それらを参考に、自分なりに工夫し、子供たちの学びを充実させていきましょう。